

◎ 第53回「名古屋テーブルトップショー 2020」開催

事務局

第53回名古屋テーブルトップショーが、1月15日(水)、16日(木)の両日、前回6月に続き、名古屋市千種区にある吹上ホールと、名古屋駅前の愛知県産業労働センター「ウインクあいち」の2ヶ所を会場に開催されました。

日々の食卓を彩るテーブルウェア、ハウスウェアの国内最大級の見本市として、商社を中心に出席するこの展示会には、「吹上ホール」の会場には63社、「ウインクあいち」の会場には66社の合計129社が出展しました。

当協会も後援するこの名古屋テーブルトップショーには当協会の会員企業からも、(株)アイトー、(株)金正陶器、佐治陶器(株)、前畑(株)、(株)丸利玉樹利喜蔵商店の各社が「吹上ホール」に、西海陶器(株)が「ウインクあいち」に出展され、事務局からは開催初日の15日に取材に行きました。

上: 吹上ホール正面入口

下: 吹上ホールの会場内部



<(株)アイトー>



左上: ブースのテーマカラーも前回迄のグリーンから
ワインカラーに一新

右上: “Leo Lionni(レオ レオニ)”のカラフルなボウルと
マグカップ、動物たちのイラストが目を引きます

右: 壁面にひととき目を引いたベンガラ色と粉引風の
色釉の食器



<(株)金正陶器>



左上: 醤油用の小皿、ミッフィーが浮かび上がります
 右上: スヌーピーは 70 歳、ミッフィーは 65 歳、
 いずれも私より年上です
 左: 子供食器らしい家をかたどった清潔感のある白い
 ブースが目を引きます

<佐治陶器(株)>



左上: 手作りの高級な急須がとこ狭しと並んだ棚
 右上: テーマは「日本人だから米を味わう」
 人気の炊飯土鍋、おひつを展示
 下: 佐治陶器では初めて見るコーヒー碗皿
 津にある廣永窯の商品



<前畑(株)>



左:明るく開放的なブース、木の陳列台が落ち着いた雰囲気 연출

左下:「ボタニカ」は北欧の花や木、葉などをかたどったデザイン

右下:「TOKYO 2020」いよいよ今年開幕、グッズも充実してきました



<(株)丸利玉樹利喜蔵商店>



左上:ブースはシックな黒が基調

右上:日常使いの器だからこそ、シンプルでモダンなデザインを提案

左:中央の「Blue Flower」は、1970年代の画材ならではの鮮烈なブルーの花柄のデザイン



ウインクあいち「暮らしの彩展」会場のエントランス 「おにぎりのデザイン」がシンボルマークに



<西海陶器(株)>



左上:ギャラリー風の展示もすっかり定着しました
 右上:「御本(ゴホン)手」とは、特定の成分を含む
 陶土を還元焼成によってピンクの斑点が
 現れる技法
 左下:お茶の美味しさを引出す茶器
 昭和っぽい懐かしい感じの急須

今回は、それぞれの会場に戻っての 2 回目、3 回目の開催とあって、両会場とも落ち着いた雰囲気でした。両会場を結ぶ巡回バスのお陰でアクセスも便利で、紆余曲折はあったものの落ち着くところに落ち着いたというのが私の印象です。

初日ということで来場者も多く、海外からのバイヤーらしき方々も大勢見かけました。商品は、テイストは様々ですが、引続き色釉のものが人気の様でした。形状はシンプルでモダン、和にも洋にも使え、収納にもスペースを要しない、使い勝手の良さそうな食器が多くみられました。その他、懐かしい雰囲気のボタニカル調のデザインを 2 ヶ所で目にしました。また流行する兆しでもあるのでしょうか？

今回は、「吹上ホール」の会場には 927 社 1,438 名、「ウインクあいち」の会場には 515 社 860 名、其々来場があったとのことでした。